

講義コード	519100803	
講義名	教育相談 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	矢野 善教	指定なし
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の概要

【授業の概要】

子どもへの支援では、支援案を考える際の基礎となる理論を学んだ上で、具体的なアプローチを体験的に学びます。保護者への支援では、基本的なカウンセリング技能を学んだ上で、どのように助言を行ったり、連携を取っていくことが効果的なのかについて学びます。

【授業の方法】

①プレゼンテーションの方法

授業では、板書とICTを活用します。また、精神疾患や発達障害などについての事例を紹介します。

②授業形態

主に講義形式で行います。授業の内容によって、グループワークを行います。

③アクティブラーニングの有無

毎回、その日の授業内容について小テストで5問出題します。

④課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、小テストを採点后、次回の授業時に返却し、解答の解説を行います。

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標とテーマ】

保育現場では、さまざまな教育上の問題に出会います。すでに、実習を通して出会っている学生もいるかもしれませんが。本授業では、教育相談を通して子どもの支援や保護者の支援を行なうための、知識と技能について説明できるようになることを目標とします。

【学修成果評価マトリックスとの関連】

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、②③を重視します。

【ディプロマ・ポリシーとの関連】

幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している。」を達成するための科目です。

授業計画表

回	項目
第1回	オリエンテーション (授業の進め方)
第2回	応用行動分析学の基礎
第3回	応用行動分析学の技法
第4回	応用行動分析学の応用
第5回	行動療法の基礎
第6回	行動療法の技法・応用
第7回	ソーシャル・スキル・トレーニング 概論
第8回	ソーシャル・スキル・トレーニング 指導案作成
第9回	ソーシャル・スキル・トレーニング リハーサルと指導案の修正

第10回	ソーシャル・スキル・トレーニング 発表
第11回	大人の心の問題（統合失調症・躁鬱など）
第12回	大人の心の問題（強迫性障害・摂食障害など）
第13回	子どもの心の問題（チック・排泄障害など）
第14回	子どもの心の問題（睡眠時異常行動障害・PTSDなど）
第15回	保護者との面接

授業時間外の学修

【予習事項と、それに必要な時間】

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、参考文献等で該当する内容の予習をして授業に臨んでください。各回の予習には15分かかると予想されます。

【復習事項と、それに必要な時間】

また、復習として、レジュメおよび板書事項の見直しをしてください。各回の復習には30分かかると予想されます。

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
○	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解して、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
具体性	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿を自らのかわる問題として豊かにイメージできていると認められる	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿をイメージできていると認められる	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿を概ねイメージできているが、現実との乖離も見られる	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まり、具体的な行為や姿をイメージすることが出来ないためレポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
実践力	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し説得力のある形で結論づけていると認められる	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し結論づけていると認められる	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し結論づけようとするが、説得力に欠ける	調べた結果のみを提示するに留まり、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
実現可能性	事例に対する支援方法として実現可能性が認められるとともに、副次的な効果も期待できる。	事例に対する支援方法として実現可能性が認められる。	事例に対する支援方法として実現していくには、一部改善点が見られる。	事例に対する支援方法として実現していくには、大幅な改善点が見られる。

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等	30%	
成果発表		
授業への貢献度	30%	
レポート	40%	
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の冒頭で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

等 ム 用 用	チャット	クリッカー、アンケート、小テスト ビデオ会議システム 掲示板の活 メール等の活
------------------	------	--

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30~60%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） プレゼンテーション 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用		

教科書

教科書は使用しません。毎回、プリントを配布します。

参考書

下山晴彦編 「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房

SDGsとの関連

に	4. 質の高い教育をみんな
---	---------------

特記事項等

【実務経験のある教員】

本科目は実務経験のある教員（公認心理師、社会福祉士）が担当します。

【科目のナンバリング】

SOB2404

【オンライン授業の実施方法】

オンラインで授業が開講されることになった場合、本科目はTeamsによる教材提供、動画配信、小テスト等で授業を行います。

【その他の特記事項】

特になし。

学生へのメッセージ

保護者が自分よりも年上である、ということは往々にしてあります。それでも、みなさんは保護者の相談に応じなければなりません。そんなときに大きな武器となるのが、専門職としての「アセスメントスキル」や「支援スキル」です。

本授業では、それらの知識やスキルを身に付けて、保護者からの教育相談に適切に応じることで、目の前の「その子」を支援することを目指します。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 220室（矢野研究室）

電話番号

028-667-7111（代表）

授業用E-mail

yoshinori@sakushin-u.ac.jp

成績評価法**【評価の内容・割合・基準】**

授業での課題への取り組み姿勢や提出物、期末レポートの成績等によって評価します。

- ① 試験 0% 実施しません。
- ② レポート 40% 期末レポートで、授業内容全般の理解度を評価します。
- ③ 平常点 60% 授業での積極性（30%）や小テスト（30%）を評価します。
- ④ その他 0% 実施しません。